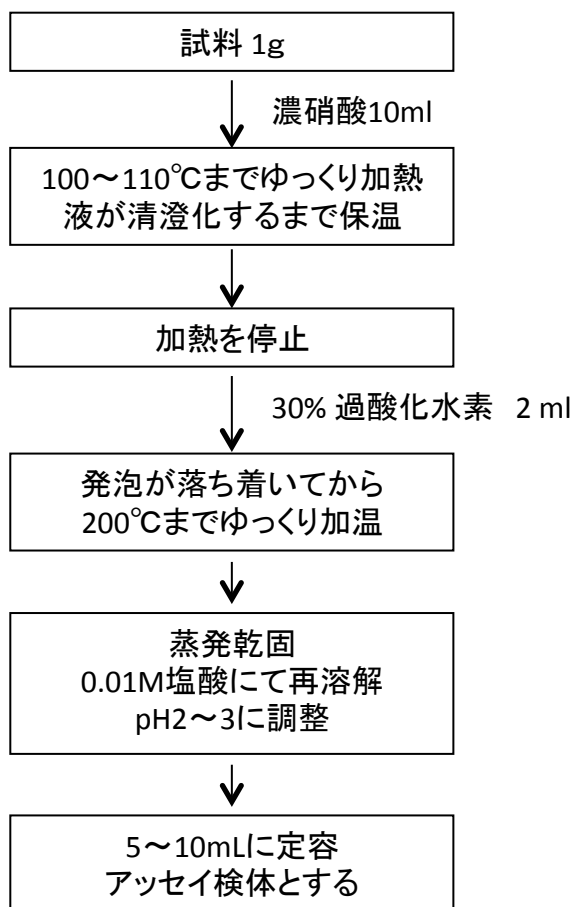


骨試料の混酸分解処理プロトコール



- 骨に付着している組織などはあらかじめ脱脂することを推奨します。
- 硝酸10ml添加時の加熱で溶けない場合は、硝酸を追加しながら加熱する、もしくは、1ml程度の塩酸を添加してください。
- 溶解が芳しくない場合は過塩素酸法、王水法を別途参照願います。
(再溶解時の塩酸量はアッセイ時の測定濃度範囲となるように設定してください)
- 本プロトコールはあくまで一例であり、そのパラメータを保証するものではありません。
- 試料種、目的により適宜、最適なパラメータで実施して下さい。

操作上の安全留意点

操作時は各試薬のMSDSを熟読されたうえ、安全な環境で操作して下さい。
混酸分解処理は、腐食性ガス、突沸、爆発等の危険性があります。
スクラバー、安全化キャビネット等、十分に換気ができる実験環境で実施して下さい。